

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

<p>事業名：一般国道231号 <small>おふゆ</small> 雄冬防災</p>	<p>事業区分</p>	<p>一般国道</p>	<p>事業主体</p>	<p>国土交通省 北海道開発局</p>
<p>起終点：自：北海道石狩市厚田区安瀬 至：北海道石狩市浜益区雄冬</p>			<p>延長</p>	<p>11.6 km</p>
<p>事業概要：一般国道231号は、札幌市を起点とし、石狩市を経由して留萌市に至る延長約130 kmの幹線道路である。 このうち雄冬防災は、落石崩壊等による危険箇所及び落石・雪崩の特殊通行規制区間の解消を目的とした、石狩市厚田区安瀬から浜益区雄冬に至る延長11.6 kmの事業である。</p>				
<p>H6年度事業化</p>		<p>H一年度都市計画決定 (H一年度変更)</p>		<p>H6年度用地着手</p>
<p>H6年度工事着手</p>		<p>全体事業費 約669億円</p>		
<p>事業進捗率</p>		<p>80%</p>		<p>供用済延長 5.8 km</p>
<p>地域の防災面の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成5年度には、土砂崩れ、落石により約5,130時間の通行止めが発生。</li> <li>・当該区間の防災面の課題は、石狩市浜益地区（人口：1,607人）において日常生活や経済活動を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、石狩市からも改善の要望が出されているなど地域の喫緊の課題となっている。</li> <li>・現道には、防災上の対策必要箇所が76箇所（落石・崩壊：45箇所、岩盤崩壊：25箇所、雪崩：5箇所、地吹雪：1箇所）、異常気象時の特殊通行規制区間が2区間（落石、雪崩）存在し、また、「送毛工区」の現道トンネルには、クラックの増加・発展がみられ、変状の進行が確認されることから、いずれも早急な対策が必要。（北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10））</li> </ul>				
<p>課題を踏まえた対策・事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「太島内工区」、「雄冬工区」、「浜益工区」は、防災上の対策必要箇所に対して、外力が大きく現道での対策が大規模となり困難であるため、災害要因の解消、現道交通への影響、事業期間及び経済性を防災上の視点から技術的に比較考慮した結果、高波、土砂崩れ・落石、雪崩の危険区間を回避する別線トンネルの整備が妥当。（北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10））</li> <li>・「送毛工区」の現道トンネルは、変状が進行していることから、災害要因の解消、現道交通への影響、事業期間及び経済性を防災上の視点から技術的に比較考慮した結果、熱水変質を受けた強変質層を極力避けた別線トンネルの整備が妥当。（北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10））</li> <li>・別線トンネルを整備することにより課題箇所を回避。</li> </ul>				
<p>事業の効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①走行時間の短縮等（63億円（残事業＝36億円））</li> <li>②災害による被害の回避等（207億円（残事業22億円）） <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩盤崩壊等による通行止め時の迂回の解消</li> <li>・救急搬送の効率化及び遅延の回避</li> <li>・余裕時間の短縮</li> </ul> </li> <li>③地域住民の不安感の解消（533億円（残事業＝533億円）） <ul style="list-style-type: none"> <li>・走行時の安心の確保・不安の解消</li> </ul> </li> </ul>			<p>費用（残事業）/（事業全体）</p> <p style="text-align: center;">94/770億円</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>事業費：95/771億円 維持管理費：-0.95/-1.5億円</p> </div>	
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>地域から頂いた主な意見等： 石狩市など6市1町1村の首長で構成される「北海道石狩地方開発促進期成会」より事業促進の要望を受けている。</p> <p>知事の意見： 落石崩壊等による危険箇所及び落石・雪崩の特殊通行規制区間の解消等が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。</p>				

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 深川・留萌自動車道が深川JCT～留萌大和田ICまで開通
- ・ 道央圏連絡道路が江別東IC～蕨岱ランプまで開通
- ・ 市町村合併により、「石狩市」が誕生
- ・ 石狩湾新港 石狩LNG基地稼働

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成6年度に工事着手して、用地進捗率99%、事業進捗率80%となっている。  
残事業の内容（新雄冬岬トンネル 1, 555m等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成25年度 石狩市浜益区送毛～石狩市浜益区送毛 L=3.8km (2/2) 開通予定。  
平成27年度 石狩市浜益区雄冬～石狩市浜益区雄冬 L=2.0km (2/2) 開通予定。

施設の構造や工法の変更等

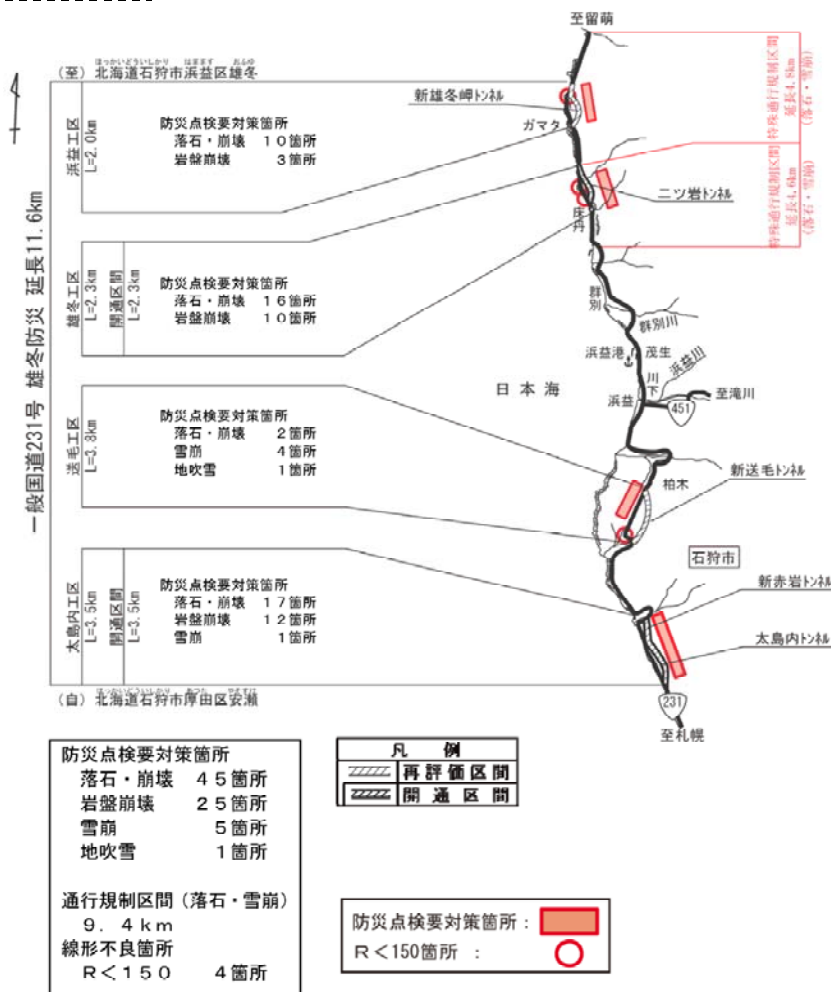
施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、防災面の効果が見込まれるため。

事業概要図



※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。  
※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。